

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
17109012	自己免疫疾患末梢抗原に対する免疫寛容獲得機構の解明	天谷 雅行（慶應義塾大学・医学部・教授）	A
<p>研究の進捗状況については、Dsg3 特異的T細胞クローンの樹立、これまでに明らかにされていないB細胞末梢免疫寛容機構の可能性を示唆する成果等着実に研究は進捗している。</p> <p>1) これまでの研究成果はインパクトの高いジャーナルに発表され、今後もさらに評価の高いジャーナルに発表が出来るかと推察する。</p> <p>2) 研究費の使用状況、組織の状況も問題なく、研究目的の達成は可能であると評価できる。</p> <p>3) 研究代表者の発見した天疱瘡抗原である Dsg3 から、この分野の研究は飛躍的に全世界で追試、発展研究がされているが、さらに研究代表者は、天疱瘡モデルマウスの作成、病原性および非病原性の各種 Dsg3 特異的 T 細胞クローンの樹立、Dsg3 特異的B細胞トランスジェニックマウスの作成、Dsg3TCRcDNA, Dsg3TCR に特異的に結合するペプチドの作成などすべて自らの研究室でオリジナルな研究手段を戦略的に開発し、世界のこの分野の研究者に提供し、多大な貢献をしている。基盤研究(S)の研究の進捗状況としては着実であり、国際的な期待通りの成果が見込まれる。</p>			